

第1回標準委員会 発電炉専門部会
安全解析のための風洞実験分科会 議事録

1. 日時 平成13年1月31日(水) 10時00分～12時15分
2. 場所 日本原子力学会 会議室
3. 出席者(敬称略)
(出席委員) 井手(主査)、柿島(副主査)、白木(幹事)、安達、大場、佐田、鈴木、福田、水本、村松、山澤 (11名)
(常時参加者) 門田、金森、矢尾板(3名)
(傍聴者) 藤井(1名)
(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

- P3SC1-1 標準委員会の活動状況について
- P3SC1-2 委員名簿
- P3SC1-3 標準委員会規定
- P3SC1-4 標準委員会運営内規
- P3SC1-5 標準委員会専門部会運営通則
- P3SC1-6 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営通則の解説
- P3SC1-7 標準委員会の活動基本方針
- P3SC1-8 標準作成手引き
- P3SC1-9 標準原案の審議に関するガイドライン
- P3SC1-10 日本原子力学会標準制定スケジュール(案)
- P3SC1-11 標準委員会委員会関連欧文名称及び略称
- P3SC1-12 発電炉専門部会の活動方針
- P3SC1-13 「発電用原子炉施設の安全解析のための風洞実験」標準化の進め方について(案)
- P3SC1-14 OHP資料「安全解析のための風洞実験について」
- P3SC1-15 発電用原子炉施設の安全解析のための風洞実験手法の研究(電中研総合報告書)
- P3SC1-16 安全解析のための風洞実験分科会 委員一覧(案)

5. 議事内容

議事に先立ち、事務局より、11名の委員全員が出席している旨の報告があった。

(1) 経緯の説明

事務局よりP3SC1-1により、これまでの経緯の説明を行った。

(2) 標準委員会規約類の説明

事務局よりP3SC1-3, -4, -5, -6により、標準委員会規約類の説明を行った。

(3) 分科会委員の紹介

委員及び傍聴者がそれぞれ自己紹介をおこなった。

(4) 主査の互選と分科会役員の指名

a) 事務局からの主査選任方法の説明の後、出席委員全員による無記名投票が行われ、以下の結果となり、井手委員が主査に選出された。

投票結果；井手 委員 得票 10票

安達 委員 // 1票

b) 井手主査指名により、柿島委員が副主査に選出された。

c) 主査、副主査の協議により、白木委員が幹事に選出された。

d) 井手主査より、「電力の中で原子力は重要であり、今後の原子力の展開に役立って行きたい」、旨の挨拶があった。

(5) 常時参加者の承認

事務局よりP3SC1-16により、4名の常時参加依頼がきていることが紹介され、全員一致で、門田氏、金森氏、田中氏、矢尾板氏を常時参加者として承認した。

(6) 標準委員会活動の基本方針等

事務局よりP3SC1-7により標準委員会活動の基本方針の、P3SC1-12により発電炉専門部会活動方針の説明を行った。

(7) 分科会活動の進め方

白木委員よりP3SC1-13により、分科会活動の進め方についての説明があった。以下のような審議が行われた。

- ・検討対象範囲をどこまで含めて考えるかが問題である。実験で再現できる気象条件は全てではなく、大気安定度D（中立）で行っている。他の安定度（安定、不安定）への適用は、手法が確立されていないので、技術の進展を把握しつつ、別途考えることとし、取りあえず標準化できるところから手がけていくのが妥当と考える。
- ・風洞実験で現象を模擬する際、各種の制約があり、それらの最適化を図るが、実現象を正確に模擬できる部分とできない部分があり、どこまでが模擬できるかの仕分けが必要で、最終的にはエンジニアリングジャッジによる部分が出てくる。
 - ・実験の際に必要な模擬の精度は、結果を何に利用するかで異なる。この結果を利用する線量評価の精度との整合性を考慮して決定すべきであり、風洞実験の精度のみ追求しても意味がない。
- ・スタックの有効高さという考え方自体を議論の対象にすると研究的要素が多くなるため、これは今回の標準化と切り離し、気象指針に記載されている事をどのように標準化するかを議論すべきである。
 - ・①実験条件の検討のためには、原子力安全研究協会のデータの活用が考えられる一方、②実験結果の評価方法及び③安全解析への適用方法の検討のためには、現存のデータを集めることが必要となる場合も想定される。そのため、今後、必要となるデータを明確にするためにも、本分科会にて検討する範囲を確定する。

(8) 安全解析のための風洞実験の説明

柿島委員よりP3SC1-14のOHPにより、安全解析のための風洞実験についての説明があった。以下のような審議が行われた。

- ・安全解析のための風洞設備は複数あることから、今後、異なる風洞設備による同一対象の風洞実験結果を資料として検討し、異なる風洞設備による実験結果の整合性を確認することとしたい。
- ・現在の気象指針の内容で作業を進める。

(9) その他

次回分科会の検討内容は以下とする。

- ・本実験／評価の体系の説明（これにより問題点が明確となり、検討範囲が明確にできることが期待できる）。
- ・原子力安全研究協会の報告書の紹介

6. 次回開催予定

第2回分科会を、3月9日（金）13時30分より開催することとした。

以上